



- 裏面の切込型紙により扉に切込みを行って下さい。
  - ラッチケース④を取付ネジ⑧にて取付けて下さい。
  - 錠本体が解錠状態（握り玉が回転する）になっているか確認して下さい。（施錠状態で取付すると、閉め出される恐れがありますので、必ず解錠状態にして下さい。）
  - 鍵を内側握り玉⑩に挿入し、時計回り①に、90° 回した位置で添付のスパナ③又は、ピンの先で内側握り玉の小さな穴⑥を、押しながら、内側握り玉を外して下さい。（この時、鍵は、時計回りに90° 回した位置にしておいて下さい。）
  - 内丸座⑦及び固定リング⑨を取外して下さい。
  - 外丸座①を図1の様に扉に当て、フロント①の端にある矢印⑫と錠本体⑬の矢印⑫が合う様に外丸座を回して調整し、錠を扉厚に合わせて下さい。
  - ラッチケースの後部とボディの噛合部が、図2の様に必ずかみ合う様にして錠本体を扉外部より挿入して下さい。
  - 扉内側より、固定リング及び内丸座を取付けて下さい。
  - 内側握り玉⑩を取付けて下さい。取付方法は、シリンダータイプにより3種類に分かれます。下表を参考に取付けて下さい。
  - ストライクは、ラッチボルト①に合わせ柱立付を切込み、取付けて下さい。
- 取付後、トリガーボルト⑤がストライクの穴へ入らない様にして下さい。

## シリンダータイプ別内側握り玉取付方法（正規に取付けないと、鍵が抜けない、内外で作動が違うなどの作動不良となります。）

ディスクシリンダー	ロータリーディスクシリンダー (U9、UX)	ピンシリンダー (PX)	ニカバシリンダー (J)	電子キー付シリンダー (EC)
(シリンダー正面)	(シリンダー正面)	(シリンダー正面)	(シリンダー正面)	(シリンダー正面)
<p>【図3】</p> <p>9-1. キーバー⑩の切欠キ⑫を図3の位置に以下の手順で合わせて下さい。            ・マイナスドライバーをキーバーの穴に挿入し、反時計方向①に、いっぱいまで回し、次に時計方向②に約200° 回し、図3の位置に合わせる。            (注) -2Bタイプの場合、キーバーの奥にある連結板⑭も、同時に回し、位置を合わせて下さい。</p> <p>9-2. 内側握り玉⑩の穴⑥(赤印付き)とテールピース⑪の凸部⑬を合わせて下さい。            (内側握り玉を外した状態と同じ)</p> <p>9-3. テールピースの凸部とキーバーの切欠キの方向を合せ、内側握り玉を錠本体に挿入し、添付のスパナの先、又は、ドライバーで止金⑮を押しながら内側握り玉を押し込み、内側握り玉を取付けて下さい。            (注) テールピースがキーバーの穴に入りにくい時は、鍵でテールピースを押し込む様にして、挿入して下さい。この時、むやみに鍵を回すと、テールピースとキーバーとの位置が狂い、作動不良の原因となりますので、注意して下さい。</p> <p>9-4. 握り玉が確実にセットされたことを、引張って確かめて下さい。            (注) -2Bタイプのテールピースは、凸部の代わりに赤印がついています。赤印をキーバーの切欠キと合わせて下さい。</p>	<p>【図4】</p> <p>9-1. キーバー⑩の切欠キ⑫を図4の位置に以下の手順で合わせて下さい。            ・マイナスドライバーをキーバーの穴に挿入し、反時計方向①に、いっぱいまで回し、次に時計方向②に約200° 回し、図4の位置に合わせる。            (注) -2Bタイプの場合、キーバーの奥にある連結板⑭も、同時に回し、位置を合わせて下さい。</p> <p>9-2. 内側握り玉⑩の穴⑥(赤印付き)とテールピース⑪の赤印⑬を合わせて下さい。            (内側握り玉を外した状態と同じ)</p> <p>9-3. テールピースの赤印とキーバーの切欠キの方向を合わせ、内側握り玉を錠本体に挿入し、添付のスパナの先、又は、ドライバーで止金⑮を押しながら内側握り玉を押し込み、内側握り玉を取付けて下さい。            (注) テールピースがキーバーの穴に入りにくい時は、鍵でテールピースを押し込む様にして、挿入して下さい。この時、むやみに鍵を回すと、テールピースとキーバーとの位置が狂い、作動不良の原因となりますので、注意して下さい。</p> <p>9-4. 握り玉が確実にセットされたことを、引張って確かめて下さい。</p>	<p>【図5】</p> <p>9-1. キーバー⑩の切欠キ⑫を図5の位置に以下の手順で合わせて下さい。            ・マイナスドライバーをキーバーの穴に挿入し、反時計方向①に、いっぱいまで回し、次に時計方向②に約200° 回し、図5の位置に合わせる。            (注) -2Bタイプの場合、キーバーの奥にある連結板⑭も、同時に回し、位置を合わせて下さい。</p> <p>9-2. 内側握り玉⑩の合せ穴⑬(赤印付き)とテールピース⑪の赤印⑭を合わせて下さい。            (内側握り玉を外した状態と同じ)</p> <p>9-3. テールピースの赤印とキーバーの羽⑯の方向を合わせ、内側握り玉を錠本体に挿入し、添付のスパナの先、又は、ドライバーで止金⑮を押ししながら内側握り玉を押し込み、内側握り玉を取付けて下さい。            (注) テールピースがキーバーの穴に入りにくい時は、鍵でテールピースを押し込む様にして、挿入して下さい。この時、むやみに鍵を回すと、テールピースとキーバーとの位置が狂い、作動不良の原因となりますので、注意して下さい。</p> <p>9-4. 握り玉が確実にセットされたことを、引張って確かめて下さい。</p>	<p>※ECシリンダーは、他のシリンダーと止金⑮の位置が異なります。</p> <p>9-1. キーバー⑩の切欠キ⑫を図5の位置に以下の手順で合わせて下さい。            ・マイナスドライバーをキーバーの穴に挿入し、反時計方向①に、いっぱいまで回し、次に時計方向②に約200° 回し、図5の位置に合わせる。            (注) -2Bタイプの場合、キーバーの奥にある連結板⑭も、同時に回し、位置を合わせて下さい。</p> <p>9-2. 内側握り玉⑩の合せ穴⑬(赤印付き)とテールピース⑪の赤印⑭を合わせて下さい。            (内側握り玉を外した状態と同じ)</p> <p>9-3. テールピースの赤印とキーバーの羽⑯の方向を合わせ、内側握り玉を錠本体に挿入し、添付のスパナの先、又は、ドライバーで止金⑮を押ししながら内側握り玉を押し込み、内側握り玉を取付けて下さい。            (注) テールピースがキーバーの穴に入りにくい時は、鍵でテールピースを押し込む様にして、挿入して下さい。この時、むやみに鍵を回すと、テールピースとキーバーとの位置が狂い、作動不良の原因となりますので、注意して下さい。</p> <p>9-4. 握り玉が確実にセットされたことを、引張って確かめて下さい。</p>	
<p>※ニカバシリンダーについて            本シリンダーのテールピースは、着脱可能となっています。テールピースが、外れた場合、鍵を抜き、下図に従って、組立てて下さい。</p> <p>テールピース⑪ (赤印付き)</p> <p>合せマーク (赤印)</p> <p>キー (赤印)</p> <p>穴⑥ (赤印付き)</p> <p>赤印を合わせる</p>				

